

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	万國平和會議に就て（承前）：論説
Author(s)	長谷川，貞一郎
Citation	龍南會雜誌， 7 3： 1 - 9
Issue date	1899-06-27
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/5317">http://hdl.handle.net/2298/5317</a>
Right	

# 龍南會雜誌第七拾叁號

## 論 說

### 万國平和會議に就て（承前）

教授 長谷川貞一郎

#### 五、平和會議提出の原因

平和會議の目的とする所は前に述べたるが如く博愛仁恕實に間然する所なきを以て列國は皆賛同の意を回答せり然り而して提出者が『モンロー』主義を以て國是と云自由、尙商主義の本家たる米國大統領にあらすして帝國、尙戰主義の本尊たる魯國皇帝陛下なるを以て種々の疑惑情忌を生じ提出の眞意に就て種々の臆説を逞うする者あり即ち

- 一、財政上の困難に本づけりとなす者
  - 二、二強國の同盟に本づけりとなす者
  - 三、一著書に本づけりとなす者
  - 四、一時の策略に本づけりとなす者
  - 五、永遠の平和希望に本づけりとなす者
- 今順次之を略叙せん

一、財政困難に本づけりとなす者の説に曰く  
近年魯國の財政は太藏大臣『ウヰッタ』氏（Witte）稀世の才能に由て整理の實を收めたるやの説あれ

ども實際は僅に其端を開きたるに過ぎざるのみ一方には『ポイランド』の如き天與の富原とするに十分なる飢地あるにも拘らず他方には『シベリヤ』の如き貧瘠の地方あり要するに魯は人口稀薄なる一貧國と評し去るの外なく且つ昨年は中央亞細亞に黒死病發生玄一昨年及び昨年は旱魃のため穀物不實究民饑饉に泣き財政の困難一層甚しく如之『シベリヤ』鐵道工事に於ても巨大の費用を要したり今試に昨年度の豫算を掲げん

歳出の部

十三億五千萬『ルーブル』

歳出總額

内譯

公債償還資金

二億七千二百萬『ルーブル』

財務行政費

二億千百萬『ルーブル』

陸軍費

一億八千九百萬『ルーブル』

海軍費

六千七百萬『ルーブル』

交通事業費

二億六千五百萬『ルーブル』

内務行政費

二億四千六百萬『ルーブル』

右は『ウイットテ』氏が熱心に節減の上に節減を加へたるものにして到底此の上は削減し難きものなり今之れに對する歳入の概略を擧ぐれば則左の如し

歳入の部

十三億六千八百萬『ルーブル』

歳入總額

内譯

五億八千九百五十萬「ルーブル」

《説明》全額の四割三分は官有財産、郵便電話造幣等の官業并に官有地拂下代金等なり而して若し戦争の場合に際しては生産労働を不生産ならせしめ或は輸出貿易を妨げ或は港灣を封鎖せらるゝ等の危厄あるを以て此の收入に減少を來すこと明かなり

七億七千八百五十万「ルーブル」

《説明》全額の五割七分は飲料、煙草、砂糖、燐寸、油等の諸税并に關稅即ち租稅等よりの歳入なり而して此等の已に最高極度まで課せられたれば此の上の増收覺束なしとす

其他茲に魯政府が非常準備とて依頼すべき財源十三億「ルーブル」あり是れ國庫并に中央銀行に所有する金貨金塊に於て目下兌換券の準備に充つるものなるが魯の如き農產物不作の場合には多額の輸入超過を見るの心配あり且つ平生より多額の外資を利用しつゝ有れば戦争の曉には俄然元利金の仕拂高を増加するを以て永く右の金貨金塊に依頼する能はざるに至るべし又之を消費せんか多年苦慮せし幣制改革も水泡に歸て經濟の紊亂を招くに至るべし

英佛二國の如きは内國に著大なる資本の蓄積をなせ多額の資金を外國の事業に放下すれども魯は之と趣を異にし多額の公債は外國資産家の所有する所にして鐵道の如きも外國よりの借入金によりて布設せられ外資の流入するもの鮮少にあらざるなり獨逸に於ける銀行業者の如きは魯國の公債募集に應すべき望なきが如し然るに魯は尙昨年十一月頃鐵道公債一億千七百萬圓を募集せんと計畫せり若し歐洲列國交際に於て今少し平穩に向はゞ之等の公債を起すに大なる便利を得べしと思ふ

に彼の平和會議を提出せたるにはあらずや

二、二強國の同盟に本づけりとなす者は曰く

夫の佛國が『アルサス、ローレン』を失ひたるが爲め獨逸に對して何時か報復する所あらんと期するが如く日本人民は遼東還附の一事より露國に對して何となく快よからざる所あるが如きとは魯國人の近年最も疑懼を懷ける所なり例へば日本が從來の七師團を増設して十二師團となすが如き魯國人の眼より視て最も解釋に苦む所なるべく若しも魯獨佛聯合といふが如きことの永久に維持せられ得べきものならば魯國も聯合の力に依頼きて日本の膨大を然るまで意に介せざらんも三國聯合の永久に賴み難きことは膠州灣事件に關て獨逸が寧ろ魯を離れて英に親むの傾向を生じかけたるにても知らるべし其後獨逸は『マニラ』の方面に於て米國の感情を損じたと同時に英國の感情をも害したるが如く獨逸の位地が斯く變じたるは魯の伴とする所ならんかなれども其れと同時に英、米の二國は何となく日本に親せんとする色あり此れぞ魯國をして最も痛心せまむるの一事にして若しも英、米、日の三國に何等かの默契ありとせば魯國の一日も枕を安んずる能はざるは大に其謂あることならん元來、歐洲の間にありて英國は常に魯、佛兩國の海軍を標準とて年々の海軍費を支出し獨逸、伊の三國は是れ亦魯佛兩國の陸軍を標準とて三國同盟の陸軍力を維持せり然るに獨逸は今に於て獨逸、伊二國の頼むに足らざるを感ずると同時に已れ一國の力を以て魯、佛の同盟に抗するの漸く難きを知りたるが如く『アルサス、ローレン』の怨に依り佛の復讐を免れんとせば是非共魯佛の同盟を破らざるべからず然れば獨帝は曩の東洋に於ける三國同盟の餘燼を再燃せまめ日本の魯を見ると恰も佛の獨を視るに似たるものあるを口實とて魯に説くに列國の間に於ける軍備の競争を止めしむべ

まどの事を以てしたるが如し是れより先き魯は日本の已れを怨むべきを想ひ朝鮮問題に關して何となく敵情を示さ居たるが膠州灣事件の起るや多年の宿望たる不凍港を旅順大連の二灣に獲得したれば猶此上に日本の感情を損するの無益なるを悟り朝鮮問題に關えて日本に讓歩する所あり斯くして暫く自ら休養せんと志さまつゝあるものに似たり過般來支那問題に關えて魯國は英國に交渉し互に其權力の及ぶべき限域を劃定せんと企てつゝありと雖も少々の點に就て利害の衝突することも屢々なれば寧ろ進んで大體の上より列國の平和條約を協定せんと申出したるの事情もあらん要するに平和會議の提議は主とて魯獨兩國の利害より割り出されたることなるべく佛國の力を極めて之を非難するは頗る其理由あることならん斯く魯も獨り唯だ一時の政畧より平和會議を希望するに過ぎざれば英國の如き決して眞面目に耳を此提議に傾けざることならんとなり

### 三、一著書に本づけりとなす者、

財政家『ブリオク』氏の著述にかゝる『軍事、經濟、政治上より觀察せたる將來の戦争』(セント、ピーターズベルグ、にて發行)を指す者なり今該書に記する所の要領を叙すれば則左の如き  
冒頭先づ歐洲の軍備は既に實行の制限を逸し獨り輕重に關する問題のみに就て見るも其解釋法を發見するを得ず第二の『モルトケ』出づるども今日の軍隊を自由に操縦し能はざるべし斯の如く相當の程度を超えたる軍備は軍事上却て其混亂を惹起すべきのみならず經濟上に及ぼす影響は更に大なり然るを若し各國尙ほ其弊を悟らずとて軍備擴張を停止せざらんか終に未曾有の大恐慌を生ずるに至らん但現在の軍備に付き各國の權衡を變ずる事は到底不可行の業なれば敢て之に變更を加へずたのおの國力を對照し比較して夫れ相當の程度を定むる事とせんか不手を唱ふるものもなく實行し得べ

此説の趣意は帝の通牒と同一轍なり又「ブリオク」氏は更に其論鋒を進め軍備縮小の議幸に各國の容るゝ所となるも戦争の危険は依然として消滅せず是れのみにては未だ以て其目的を達せたるに非ざれば政治上の現勢維持を基礎として平命同盟を結び又仲裁々判を創設して國際の紛争は一切その判決を求むる事とし之に服せざる國をば管に郵便電信同盟より除名するのみならず宣戰を布告せたる時は列國協力して敵國を助く可きを約束せんは庶幾は本來の目的を達するを得べき尙ほ人民の不平を喚起し國際の紛争を煮てますく危殆ならしむるものは實に新聞なれば平和同盟は條約の一條とまで仲裁判決に對する批評を禁止し又審問の進行中は事件に關する議論及び報道を差止むるの權を彼の裁判所に與ふべし或は計畫甚だ美なれども其實行難しとて非難するものあらん去り乍ら若し此策の一部たりとも實行されなば戦争の危害を免るゝ功偉大なるべしと。單に以上のみならば著者は眞に平和を愛するものなれども終りに平和會議成功せんか將來世界の覇權は魯の掌中に歸すべし其次第は百年の後に至らば獨逸の人口は八千萬佛は五千萬に過ぎざるに魯國は三億の人口を有す可きこと推算を得て確實なれば其時には最早平和會議を要せず萬事魯の欲するが儘なる可しと論結せり

四、一時の策略に本づけりとなす者は曰く

近來英國輿論の排魯熱甚だ熾にして政府の軟弱政策を攻撃せ動もすれば政府も之に動かされんとするが如き勢あり加ふるに英政府は續々軍備の擴張を策し魯國は到底之と對抗して前進すべからざるが故に英國輿論の氣勢を挫て一時の切迫を避け其軍備擴張熱を中途に阻喪せまむるの目的を以て此際突然平和會議を提案したるものならん故に其成否は必ずしも問ふ所にあらず單に一時の目的を達

すれば可なり云々

五、永遠の平和希望に本づけりとなす者

其説に曰く魯國の領土は廣く歐亞の二大陸に跨りて各方面悉く強國に接し之を維持せ且つ其利益を伸暢せんが爲めには英國は勿論獨逸、日等の勢力に拮抗する丈けの兵備を各方面に配置せざる可からず是れ魯國財力の到底堪へざる所にして九千萬『ルーブル』海軍擴張案の如きも遼東占有以來の必要上より計畫は立てたるもの之を實行する丈けの實力は素より現實し居るにあらず加ふるに同國は是迄農業立國の國柄なるに近年凶作相次ぎ國民疲弊困憊の極に達せり國狀斯の如くなる其一方に於て露國は既に多年の宿望たる出海の路を得て大連旅順を手に入れ今後は強て外に領土を擴むるの必要なく専ら内を整ふるの道を講ず可き秋に當り前述の如く敵を諸方に受け剩さへ其出海の路を清國に取りたる以來日英漸く相接近き米西戰爭の結果米國亦東洋方面に於て日英と相近づき魯の敵たらんと欲し形勢日に非なり恰も多事の宿志を達せ暫く慾を外に絶ち専ら内を治むるの方向に轉せんとするに際し此有様と在りては其列國に諮りて永久の休息を爲さんと欲するも實に無理ならず故に今回の提案は全く同國衷心の希望に出でたりと

以上の内第五の説を採る者は甚だ僅少にまで第一より第四に至るまでは皆策略となす處なり此の如く人を以て策略にあらずやと種々の想像を逞ふせしむる者亦故なきにあらず熟々平和會議提出后に於ける魯國の處置を觀るに甚だ怪訝に堪えざる者あり即ち新に九千萬『ルーブル』(約一億圓)を支出して戰艦二、巡洋艦五、水雷破壞艦十、を新造せりと今試みに其注文國及び各艦噸數を擧ぐれば左の如し



米國	戰	一	一二、七〇〇	
	巡	一	六、〇〇〇	
佛國	戰	一	一二、九〇〇	
	水	五	三五〇	六、二五〇
獨國	巡	三		五、九〇〇
	水	四	三五〇	三、〇〇〇
英	水	一	三五〇	
	外に			
佛國	巡	一	七、八〇〇	

（但外國に注文せし所以は魯の造船事業は英國に比すれば如何なる大艦も一年半にて竣功す）  
未だ幼稚にして或は一隻のため五年乃至七年を要するを以てなり）

其他魯は絶東勤務の軍人には特別に加俸せんとせ又築港技師四十人を派遣せ五百萬『ルーブル』の金を投じて大連灣を修築せんとし尙今年よりは聯隊附士官の給金を増す由なり（之には千百萬ルーブル）是列國の亦怪まむ處にして列國も會議提出の主義に於ては毫も間然する所なきを以て賛成の意を表したれども果えて之れが實行を期すべきか如何なる手段方法に依るべきかを疑ひ且つ魯が右の如く軍備を擴張するを以て列國も提議後更に軍備を中止するものなく英は海軍費八百萬『ポンド』（九千餘萬圓）の支出を計畫し又陸軍の擴張を行ひ獨逸も陸軍四萬を増加し本年度議會には莫大の海軍費を請求せんとせ佛も百八艦を新造せんとせ多年の平和國たる米國すら四千七百萬弗の海軍費を

支出は十五隻の軍艦を新造し十萬の常備兵を置かんとしつゝあり

世或は此會議を否定して曰く平和會議の完全に成功するは必要の程度に究達せたるべき若しくは仁愛の極度に發達せたるべきならざるべからず而して現時は其の孰れの時代にも非ざるなりと然れども或は之を難じて曰く提出者が正則的に出づべき國より出でずして變則的に出づべからざる國より出でたるは或は今時が所謂必要の極度に發達したる時代にはあらざるか又自由、尙商主義の本家より出でずして帝國、尙戰主義の本尊より出たるは或は今時か所謂仁心の極度に發達したる時代にはあらざるかと乞ふ他日會議の結果に見ん

## 社會問題は必然なり

講師 丸山 通一

今の所謂社會問題は主として工場労働者問題なりと雖も、元來社會問題と謂ふは甚だ茫漠たる意義に於て、或は制度の問題たるべく、或は經濟の問題たるべく、或は道德の問題たるべく、或は宗教の問題たるべく、或は種々の問題の紛錯したるものたるべく、苟くも人間の社會らしき社會を成す所即ち制度あり教化ある所には千變萬化して發生する問題なり。個人と個人との間若しくは階級と階級との間に優勝劣敗のみ行はれ又は行はるべきものなりと信ぜらるゝ社會、及び社會と社會との間に優勝劣敗の活劇止むことなき時代には社會問題は未だ發生することを得ざるなり。宗教道德の觀念、權利自由の思想、制度法律の智識、往來通信の便の發達し、思想交換、合意同盟の容易なるに従て社會問題は漸く勢力を逞しうするに至る。社會問題の萌芽は社會の成立と共に生じ、制度教化の結果として